

—— 聴覚障害者及び視覚障害者のための大学 ——

筑波技術大学ニュース

第 25 号

発行日：2012年11月

www.tsukuba-tech.ac.jp



国立大学法人

筑波技術大学



筑波技術大学では、大学のイベント情報や最新のニュースなどの様々な情報を提供するメールマガジンを配信します。ご登録は、登録用 URL (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail_magazine)
又は QR コードから行えます。みなさまのご登録をお待ちしております。



表紙：産業情報学科 3 年 中村 晃大

● 開学 25 周年記念式典を挙行



筑波技術大学開学 25 周年記念式典の様子

9月21日 金曜日、オークラフロンティアホテルつくばにおいて開学 25 周年を記念し、式典及び祝賀会を行いました。

当日は、文部科学省の板東久美子高等教育局長、公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長の山東昭子参議院議員、橋本昌茨城県知事、障害者団体関係者、大学関係者など約 200 名が出席するなか行われました。

式典では、村上学長から 25 年の経験を基に今後は国内

のみならず世界の障害者教育の中核的役割を担う大学としてさらなる実績を積み重ねて行きたい旨の式辞の後、板東高等教育局長、山東議員、橋本県知事、山田信博筑波大学長（代読）、ジェラード・バックリー ロチェスター工科大学・国立聾工科大学長から、それぞれ、より高度な障害者教育への取り組みや社会に貢献できる人材育成への期待が込められた祝辞がありました。



(左から) 祝辞を述べられる板東高等教育局長、山東参議院議員、橋本茨城県知事



清水筑波大学副学長、バックリー学長と記念品を受け取る村上学長

式典に引き続き行われた祝賀会では、村上学長から、次の50周年に向けて社会の期待に応えるべく全力を尽くす所存である旨のあいさつの後、藤田幸久財務副大臣（当時）、大泉博子衆議院議員、市原健一つくば市長、関正夫社会福祉法人茨城県社会福祉協議会会長から、本学の25年に渡る障害者高等教育への貢献に対しての敬意とともに今後の発展を祈念したあいさつをいただきました。次いで中井滋

宮城教育大学理事（連携担当）・副学長の乾杯のご発声により懇談が始まり、石野富志三郎財団法人全日本ろうあ連盟理事長、高橋真里天丘会会長、小畑修一元筑波技術短期大学長、西條一止元筑波技術短期大学長、大沼直紀前筑波技術大学長からスピーチをいただくなど、和やかな雰囲気の中で開学25周年を祝いました。

（総務課 総務係）



（左から）あいさつを述べられる藤田財務副大臣、大泉衆議院議員、市原つくば市長



関茨城県社会福祉協議会会長、筑波技術大学開学25周年記念祝賀会の様子

● 開学 25 周年記念国際シンポジウム 2012 を開催

9月20日 木曜日、天久保キャンパス講堂において、開学25周年記念国際シンポジウム2012が開催され、本学教職員、本学学生及び一般市民を含む約200名の参加者がありました。村上学長の歓迎挨拶のあと、ロチェスター工科大学・国立聾工科大学長のジェラード・バックリー学長による「NTID（国立聾工科大学）の大学院教育」と題した講演、次いでギャローデット大学のゴーラブ・マーサー准教授による「ギャローデット大学における大学院教育の将来」と題した講演、最後にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校のジュニファー・ゲッツシニアディレクターによる「障害のある学生のための大学院教育－カリフォルニア州立大学ノースリッジ校における未来の展望－」と題した講演がありました。

バックリー学長は、「NTID（国立聾工科大学）の大学院教育」の中で、NTIDが45年間の歴史を通じて7,000人以上の卒業生を輩出し、90%の就職率を維持していること。就職斡旋に加えて、職業についてからの成功やその結果の資料を提供するために、NTIDは生涯にわたって卒業生のキャリアアップを追跡していることを述べました。さらに世界中の聾者のために、彼らの職業と国家に貢献するための機会が世界的な規模で急速に出現していること、世界中の聾者がこれらの機会を利用できるようにするための手段として、本学とNTIDの間にあるプログラムのような連携とパートナーシップを拡充、継続して行くことの重要性を

強調されました。

マーサー博士は「ギャローデット大学における大学院教育の将来」の中で、ギャローデット大学で多くの学生が大学院教育を受けている理由として、教授陣や出版物が優れていること、教員が研究に学生たちを参加させていること、聾者や難聴者のコミュニティを中心とした多くの大学院生向けのプログラムを提供していることを挙げました。

ゲッツ博士は「障害のある学生のための大学院教育－カリフォルニア州立大学ノースリッジ校における未来の展望－」の中で、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校（CSUN）が、身体に障害のある学生のために、彼らが学習者として、地域社会の一員として、また専門家として成功するように50年以上にわたって支援してきたことを述べました。

講演後は、講演者及び渡部副学長（大学院研究科長）を交えたディスカッションの時間が設けられ、各大学、大学院のカリキュラム、情報保障を含む学生支援、障害者の法定雇用等について積極的な質疑応答が行われました。フロアからの質問に答えて渡部副学長から本学大学院のカリキュラムや院生の研究課題の紹介があり、大越副学長の閉会の挨拶をもって終了し、開学25周年を記念するふさわしいシンポジウムとなりました。

（障害者高等教育研究支援センター 須藤 正彦）



講演の様子



学生がバックリー学長に質問する様子



ディスカッションの様子

（左から司会の須藤教授、バックリー学長、マーサー博士、ゲッツ博士、渡部副学長）

● 平成 24 年度障害学生支援大学長連絡会議を開催

10月20日 土曜日、名古屋国際センターにおいて、愛知教育大学を主幹大学、本学を事務局として「平成24年度障害学生支援大学長連絡会議」を開催しました。今回は5回目の開催で、国立、私立大学合わせて15大学の学長や障害者支援担当者が出席しました。

会議に先立ち、村上学長から、本会議の開催趣旨等を含めて開会あいさつがあり、松田愛知教育大学長の司会によ



会議の様子

り会議が進行されました。

次いで、日本学生支援機構学生生活部特別支援課長の田中久仁彦氏による「我が国の高等教育における障害学生の実態－平成23年度全国調査結果と日本学生支援機構の取組を中心に－」と題した基調講演が行われた後、協議に入り、宮城教育大学から提案のあった「遠隔地通訳等におけるボランティアに対する謝金等の扱いについて」及び同志社大学から提案のあった「障害のある学生（聴覚障害）の授業の質保障及び発達障害の学生に対する具体的な修学支援策について」に関する活発な意見交換があり、各大学の状況等について情報共有を行いました。

会議終了後は、同センター内において情報交換会が行われ、和やかな雰囲気での懇談の中で、各大学の障害学生支援等について情報交換を行いました。

同会議に出席された大学は、次のとおりです。

宮城教育大学、筑波大学、東京学芸大学、上越教育大学、愛知教育大学、日本福祉大学、京都教育大学、同志社大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、関西学院大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、筑波技術大学

(総務課 総務係)



あいさつを述べられる松田学長（愛知教育大学）



講演を行う田中課長（日本学生支援機構特別支援課）

● 公開講座『統合医療でいきいきアンチエイジング!!』実施

9月2日 日曜日、本学東西医学統合医療センターでは初めてとなる公開講座「統合医療でいきいきアンチエイジング!!」を開催しました。受講者は25名でした。「アタマとカラダをフルに刺激して、心身のアンチエイジングを実践する」をテーマに、アタマの刺激として加齢や統合医療の講義を、カラダの刺激として血管や肺年齢の測定とアンチエイジングストレッチ、鍼灸体験によって心身のリフレッシュをしていただきました。その他、普段じっくり見ることのない医療機器や施設の見学・説明を行い、当センターについても知っていただきました。終了後のアンケートより、9割以上の受講者に満足していただけたことがわかり、安堵と喜びでスタッフ一同、若返ったようでした。

(東西医学統合医療センター 櫻庭 陽)



平山暁教授の講義の様子

● つくば市職員を対象としたユニバーサルデザイン研修 2012 を実施

9月26日 水曜日、つくば市内でつくば市職員を対象にしたユニバーサルデザイン研修を実施しました。この研修は、本学とつくば市の連携事業の一つとして、つくば市聴覚障害者協会などの協力を得ながら、平成19年度から始まりました。聴覚障害者とのコミュニケーション体験、視覚障害の疑似体験を含んだ窓口対応体験、視覚障害・妊婦・ベビーカー使用者・車椅子使用者などの疑似体験を含んだ

まちなか歩行体験、体験に基づくディスカッションなどの講座に約50名のつくば市職員が参加しました。講座の一部には授業「産業技術プロジェクトA」のテーマ「わたしたちの街のユニバーサルデザイン」の一環として学生による立案・実施が取り入れられました。

(学術・社会貢献推進委員会 櫻庭 晶子)



弱視体験の様子



車椅子によるまちなか歩行体験の様子

● 企業向け大学説明会を開催

10月10日 水曜日、天久保キャンパスにおいて、聴覚障害系就職委員会主催による企業向け大学説明会を実施しました。67社から、およそ100名の人事・採用担当者等の方々の参加がありました。この説明会は、本学から各企業等に本学の教育と学生について説明し、聴覚障害学生の雇用並びに職場適応に関する情報を提供する場として位置づけられており、毎年開催しています。さらに、人事担当者等から伺った意見・要望等を元に、企業からの求人と学生の求職とのマッチングを図るほか、本学の今後の教育及び就職指導の在り方を検討する際の指針とすることを目的として

います。

当日は、全体説明会及び名刺・情報交換会を中心として、授業や学内施設の公開も行いました。名刺・情報交換会では、今年度就職未定者の採用や平成26年3月卒業予定者の就職活動に向けた情報交換が行われました。また、名刺・情報交換会の会場には保健科学部の懇談ブースも設けたため、訪れた企業の人事担当者に、本学の視覚障害学生の説明と今後の雇用促進に向けた懇談を行うことができる場ともなりました。

(就職委員会委員長 石原 保志)



全体説明会の様子



名刺・情報交換会の様子

● ルーマニアでの視覚障害者サマーキャンプ参加報告

8月1日から8日までの約一週間、ルーマニア共和国のクルジュ・ナポカ市で開催された欧州の視覚障害学生サマーキャンプ ICC (International Camp on Communication and Computer) に、3名の学生が参加しました。本事業は国際交流事業の一環として実施されたもので、参加学生は情報システム学科4年生の西田智英君と3年生の藺田祐樹君、中島達志君です。期間中、学生たちは英語で行われるワークショップやアクティビティを楽しみました。18回目のキャンプである今年度は13ヶ国から51名の学生が集いました。英語漬けの一週間の締めくくりは、フィアウェルパーティでの出し物です。3名の学生たちは新聞紙を配って紙鉄砲を作るプレゼンテーションを実施しました。

パーティでは、あちこちで別れを惜しむ様子が見られました。

(情報システム学科 小林 真)



フィアウェルパーティにてハンガリーの参加者と

● 韓国ナザレ大学とのワークショップを実施

9月10日から12日に本学の聴覚障害学生5名、視覚障害学生2名、教員5名が韓国のナザレ大学（本学の大学間交流協定校）を訪問しワークショップを実施しました。ナザレ大学とは2008年から毎年、学生によるワークショップの交流を行っています。聴覚障害系ではキャラクターデザイン学部の聴覚障害学生らとともに3Dデザイン科目などを受講し、「授業で使用する用語と手話表現の共通性」をテーマに討議を進めました。視覚障害系では理学療法学科の学生と一緒に韓医学概論などを受講し、視覚障害学生と「日韓の視覚障害者の就労」をテーマに意見交換を行いました。今回の交流事業は日本学生支援機構から、平成24年度留学生交流支援制度のSV (Short Visit) プログラムの支援を受けて行いました。

(総合デザイン学科 金田 博)



記念撮影

● 本学学生・卒業生が二科展等で受賞

二科展デザイン部には、本学学生が平成12年度より毎年作品を応募し連続受賞しています。本年度の第97回二科展は9月5日から17日まで、東京六本木の国立新美術館で開催されましたが、今回も総合デザイン学科3年の酒井美里さんが昨年度に続き連続入選したほか、卒業生の菊池樹理さん、江幡夏海さん2名が昨年度に続き連続準入選に輝きました。また、二科展に先立つ5月16日から21日まで、水戸市の茨城県民文化センターで開催された第50回二科茨城支部展デザインの部でも、本学学生が毎年作品を応募し受賞実績を重ねています。本年度も上記の菊池樹理さんが県議会議長賞、酒井美里さん、江幡夏海さんの2名が奨励賞、総合デザイン学科3年の永瀬由佳さんが入選等に輝きました。

(総合デザイン学科 長島 一道)



酒井美里さんの作品「ねこなべ」

● 平成 24 年度天久保キャンパス学園祭を開催

10月19日 金曜日から10月21日 日曜日に、平成24年度天久保キャンパス学園祭「天龍祭」が開催されました。

「天久保」の地名と「聾」の漢字から題した「天龍祭」は、「飛龍乗雲-KIZUNA-」をテーマにして幕を開けました。

前夜祭を皮切りに、手話コーラス、アイコンタクトの上映会、手話パフォーマンス、ダンス等のイベントに加え、ステージでのパフォーマンスや作品展示、多数の模擬店も出店されました。

後夜祭の締め括りでは、打ち上げ花火が夜空を飾り、開学25周年の節目の学園祭が成功裏に終了しました。

今年度は、春日キャンパス学園祭も同時開催のため、つくばセンターと天久保キャンパス、春日キャンパスを結ぶ「無料循環バス」が運行され、学内外からの見学者で賑わいました。

(聴覚障害系支援課 学生係)



ステージ企画の様子



模擬店の様子

● 平成 24 年度春日キャンパス学園祭を開催

今年度の春日キャンパス学園祭は“一人ひとりが大事な集まり”という意味を込めて「僕はひとつ One Peace」をテーマとして、10月20日 土曜日、21日 日曜日に開催しました。

企画数は21件と昨年度と同様でしたが、「情報機器展示会」「医学関連の切手展」「点字・点訳に関する展示」などの企画には多くの人が詰め掛けました。また、模擬店は焼きそば、芋煮、おでんなどの6店が出店し、さらに恒例の「極

楽堂（マッサージ）」や「Angels Hands（オイルマッサージ）」に「いきいき健康フェア（体の健康チェック）」も参入し大盛況でした。

中庭では天候にも恵まれ、ギターやバンドなどの演奏、「よさこい YAPPE」の演舞などのステージ企画が催され、たくさんの見学者を楽しませ、魅了し、充実した学園祭となりました。

(視覚障害系支援課 学生係)



バンド演奏の様子



情報機器展示会、点字・点訳に関する展示の様子